



業況DIは、小幅改善。先行き不安は強まる

ポイント

- ▶ 8月の全産業合計の業況DIは、▲23.8と、前月から+1.4ポイントの小幅改善。震災の影響により昨年は中止となったイベント等が開催されているほか、観光客、帰省客が多かったことなどから、小売や観光関連を中心に好調。比較対象の昨夏は、節電対応による休日変更に伴い、まとまった夏休みが取れないケースが多かったことも一因。一方、超円高を背景に、取引先の海外移転・調達が加速していることなどから受注低迷が長期化、中小製造業を取り巻く環境は厳しさを増している
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲26.1(今月比▲2.3ポイント)と、悪化する見込み。超円高の定着に加え、電力料金の値上げによるコスト増や、穀物価格の高騰、エコカー補助金終了による内需の反動減等への懸念から、先行きへの不安が強まっている

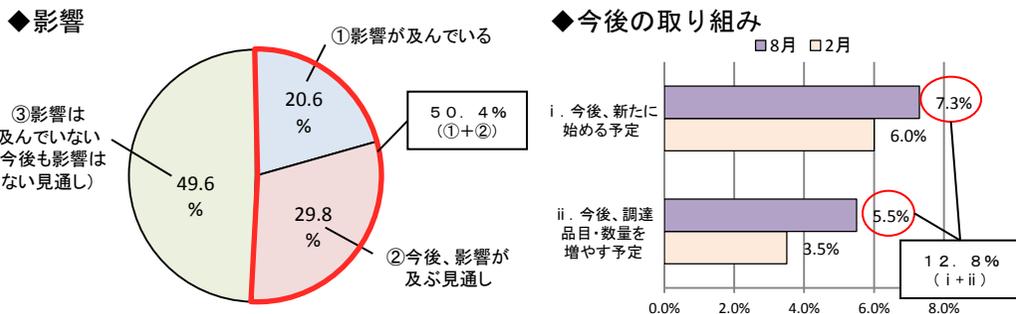
LOBO全産業合計の各DIの推移(2010年8月以降)



製造業の海外調達活発化による影響と海外調達への取り組み

- ▶ 海外調達(※)の活発化により、受注の減少や取引停止、雇用・所得の減少に伴う来客数・売上の落ち込み等、自社の経営に「影響が及んでいる(①)」もしくは「今後影響が及ぶ見通し(②)」と回答した企業は、50.4%(①+②)と過半を超える。前回調査(2月:39.9%)よりも、その影響は大きくなっている
- ▶ 自社の海外調達の実施状況をあわせて聞いたところ、ここ半年間に「新たに海外調達を始めた、もしくは調達品目・数量を増やした」企業は9.1%。「今後、新たに海外調達を始める(i)」、もしくは「今後、調達品目・数量を増やす(ii)」予定の企業は、12.8%(i+ii)。超円高の定着等を背景に、中小製造業においても、海外調達の動きは今後も続く見通し

(※)原材料、部品、資材および完成品等を海外から調達すること



[中小企業の声]

- ▶ 海外に生産拠点を持っていないような規模の企業においても、中国等のアジア地域からの部品・素材加工品の調達を増加させている。そのため、自社の受注が減少している (小松 鋼材加工業)
- ▶ 取引先が原料の海外調達を増やしているため、受注が減少。自社においても、コストダウンを目的に海外調達に踏み切った (石岡 乳製品製造業)
- ▶ 原材料の一部を海外調達に切り替えることにより、取引先からのコストダウン要請に対応している (静岡 自動車部品製造業)
- ▶ 金高騰に伴う金線価格の上昇は、販売価格に転嫁できないため、収益を圧迫。このため、一部材料の海外からの調達を6月から開始した。他の材料についても、海外調達が可能か調査中 (富士吉田 電子デバイス製造業)
- ▶ 取引先が海外での生産比率を高めている。同時に、現地調達を加速。今後、自社の受注が減少をすることを懸念 (大府 プラスチック製造業)
- ▶ 労務間におけるトラブル発生や賃金上昇等から、取引先が中国での生産を減少。原材料の安定的な調達が課題となったため、調達先を東南アジア諸国に切り換えた (勝山 織物製造業)